

# グルジア政治・経済 主な出来事

【2014年6月2日～2014年6月8日】

〔当地報道をもとに作成〕

平成26年6月12日

在グルジア大使館

## 主な動き

### 1. アブハジア・南オセチア

#### 【アブハジア】

##### ▼「首相」、「安全保障会議書記」、「検事総長」らの辞任(5日)

・2日、ラケルバイア「首相」が辞任。以降、デルバ「財務相」が「首相代行」を務める。

・4日、アシュバ「安全保障会議書記」が辞任を表明。

・5日には「議会」がミカンバ「検事総長」の罷免を投票で決定。「検事総長」の辞職は、以前より調整評議会がアंकワブ「前大統領」に対して要求していた。

・5日、ルカシェヴィチ露外務省報道官は、アブハジア「政府」は通常通り機能しており、ロシアはアブハジアの現在の指導部と密接に協力しているとコメント。

##### ▼トルコ国会議員がアブハジアを訪問(6日)

・トルコ北西部サカリヤ県選出議員5名とサカリヤ市長らがアブハジアを訪問し、ブガンバ「アブハジア共和国暫定大統領・議会議長」、チリクバ「同共和国外務大臣」らと会談した。

・9日、グルジア外務省はギュムリュクチュ駐グルジア・トルコ大使を召致し不満と抗議を伝えた。「ギュ」トルコ大使は、グルジアの主権・領土一体性に対するトルコ政府の支持を再確認した。

#### 【南オセチア】

##### ▼ティピロフ「大統領」の発言(2日)

・ロシア連邦への南オセチアの編入の可能性に関する露メディアの質問に対し、ティピロフ「大統領」は、南オセチアとロシア連邦との一体化のプロセスが進んでおり、これは編入に向けた予備的な段階であると述べ、ロシアへの編入のアイデアには良い見通しがあると答えた。また、既に以前の住民投票により住民の意志は確認されているとして新たな住民投票の実施を否定。「我々の課題は、ロシアへの編入の問題を提起する適切な時期を選ぶことである」と述べた。また、「南オセチアの新しい議会はロシア連邦に対し編入に係る請願を行なうのか」との質問に対し、「その可能性を排除しない。新しい議会にはそのような提案をする用意があるだろう」と答えた。

##### ▼第45回PRM会合(3日)

・会合に先立ち、OSCE 議長であるブルクハルター・スイス大統領が参加者に挨拶した。

・治安状況や、拘束者、行方不明者の問題について討議。問題解決のためにホットラインが有効に機能していることを評価。

##### ▼「議会」選挙(8日)

・8日、「南オセチア共和国議会」の選挙が行なわれた。翌9日の「南オセチア中央選挙委員会」の発表によれば、投票率60.47%（投票者数21,129人）。「統一オセチア党」「国民団結党」「国民党」「ヌハス党」の4党が最低得票率7%を越え、議席を得た。

・選挙での勝利を受け、第一党となった「統一オセチア党」のビビロフ党首は、「最も重要な課題はできる限り早期にロシア連邦に『復帰する』ことである。我々は直ちにこれに取り組む」と発言。

・8日、グルジア外務省は、「議会選挙」は国際法の基本的な原則を完全に無視して違法に行なわれたものであるとの声明を発表。

・同8日、アシュトン EU 外務・安全保障政策上級代表報道官も、EUは「選挙」の正当性を否定する声明を発表。

・9日、ラスムセン NATO 事務局長は、NATO 諸国は「議会選挙」を認めないとの声明を発表。

### 2. 外 政

#### ▼ガリバシヴィリ首相がドイツを訪問(2日)

・ベルリンにてメルケル独首相と会談。会談後の記者会見で、メルケル独首相は、グルジアが EU 加盟を目指しながらロシアとの関係改善を図っていることを歓迎しつつ、9月のウェールズでの NATO 首脳会議でグルジアに MAP が与えられることはなく、グルジアの前進は他の方法で評価されるだろうと発言。

・シュタインマイヤー独外相とも会談。「ガ」首相は、大戦時にドイツから持ち出されグルジアで発見された18世紀の書籍を「シュ」独外相に手渡した。

・首相の訪独にはパンジキゼ外相、クヴィリカシヴィリ経済・持続的発展大臣、ペトリアシヴィリ欧州・欧州大西洋統合担当国務大臣、ホクリシヴィリ地域発展・インフラ大臣、ピピア農業相、コバヒゼ国会副議長が同行。

#### ▼アラサニア国防相がギリシャを訪問(2日-3日)

・アヴラモプロス・ギリシャ国防相と軍事教育、輸送、軍事技術などの分野における協力について会談。

・ヴェニゼロス・ギリシャ外相、メイマラキス・ギリシャ国会議長とも会談。

#### ▼ブルクハルター・スイス大統領がグルジアを訪問(3日)

・今年の OSCE 議長国スイスの「ブ」大統領が、コーカサス3か国の訪問の一環でトビリシを訪問。マルグヴェラシヴィリ大統領、ガリバシヴィリ首相、パンジキゼ外相、与野党の議員らと会談。

・「マ」大統領との会談後の記者会見で、「ブ」スイス大統領は、グルジアに関する OSCE 議長国スイスの重要な方針の一つは、2009 年 6 月に中止されたグルジアでの OSCE ミッションの復活であると強調した。

・「ブ」スイス大統領は、ガリバシヴィリ首相と投資保護条約に署名。また、「パ」外相とグルジア・スイスの外務省間の協力に関する覚書に署名した。

・また、「ブ」スイス大統領は、南オセチア行政境界線付近に位置するエルグネティ村を訪れ、紛争予防・対応メカニズム (IPRM) 会合の参加者と会談した。

#### ▼NATOグルジア委員会会合(4日)

・ブリュッセルにて行なわれた国防相レベルの NATO グルジア委員会の会合にアラサニア国防相が出席。

・ラスムセン NATO 事務局長は、ウクライナの危機はグルジアおよび欧州・大西洋の安全保障に影響を及ぼしているとして、「NATO 同盟国はロシアによるクリミアの不法な『併合』を今後も承認しない。ロシアがグルジアの南オセチアおよびアブハジアを独立国として承認したことも受け入れない」と挨拶した。また、「2008 年のブカレスト首脳会議の決定通り、グルジアは要件を満たせば NATO に加盟する。次の NATO 首脳会議でのグルジアに対する方針は、今月後半に開かれる NATO 外相会合で議論される。私は次の NATO 首脳会議がグルジアの進展を評価すると確信している」と話した。

・「ア」国防相は NATO と ISAF に参加する NATO 非加盟諸国との会合にも参加。会合では、アフガニスタンで行われた大統領選挙、治安状況およびアフガニスタンにおける NATO の今後の計画について議論された。会合後、「ア」国防相は、「NATO 諸国はミッションに対するグルジアの重要な貢献を評価した」と話した。

・「ア」国防相はラスムセン NATO 事務局長、コヴァル・ウクライナ国防相と個別に会談。また、アゼルバイジャンおよびトルコの国防大臣と、初の 3 か国の国防相会合を行なった。会合では、地域の戦略的エネルギー輸送インフラの保護に関連した共同訓練の計画と実施に焦点を当てつつ、3 か国の協力の見通しについて議論した。

#### ▼ザオラレク・チェコ外相のグルジア訪問(4日-5日)

・「ザ」チェコが外相はマルグヴェラシヴィリ大統領、ウスパシヴィリ国会議長。ガリバシヴィリ首相、パンジキゼ外相らと会談。

・「パ」外相との文化、教育、科学、若者およびスポーツの分野における両政府間の協力に関する合意に署名。

・チェコのビジネス代表団も同行、ビジネス代表団はグルジア経済・持続的発展省主催のグルジアへの長期的な投資を誘致する会議に参加。グルジア国家投資局およびグルジアのビジネス界の代表者らとも会談した。

#### ▼アブハジア・南オセチアからの国内避難民・難民に関する国連総会決議(5日)

・国連第 68 回総会は、グルジアの提出した「グルジアの

アブハジアおよびツヒンヴァリ地方/南オセチアからの国内避難民の地位に係る」決議を賛成 69 カ国、反対 13 カ国、棄権 79 カ国で採択 (昨年は賛成 63、反対 16、棄権 84 であった)。

・決議は、全ての国内避難民・難民がもと暮らしていた場所へ帰還する権利およびその所有権の尊重を強調し、被占領地域における人為的な人口状況の変化を非難している。また、決議は国連事務総長に対し避難民の状況に関する年次報告を国連総会に提出することを求め、アブハジア・南オセチアへのスムーズな人道的アクセスの緊急の必要性を指摘している。

#### ▼グルジア軍部隊が中央アフリカ共和国へ出発(6日)

・6 日、中央アフリカ共和国での EU 軍事ミッション (EUFOR RCA) に参加する約 140 名の歩兵大隊の壮行式典が行われた。マルグヴェラシヴィリ大統領は、我々のアフガニスタンでの活動および今後のアフリカでの活動はグルジアの世界的な評価を高めると演説。

#### ▼マルグヴェラシヴィリ大統領がウクライナの新大統領の就任式に出席(7日)

・「マ」大統領はポロシェンコ・ウクライナ新大統領と二国間関係の発展と協力の展望について会談し、「ポ」ウクライナ大統領をグルジアに招待した。

・6 日にはヤツェニユク・ウクライナ首相と会談し、大統領選挙が民主的に行われたことを高く評価。

・「マ」大統領はバイデン米副大統領、ティモフティ・モルドバ大統領、パホル・スロベニア大統領とも会談。

・ホワイトハウスの発表によれば、「マ」大統領との会談でバイデン米副大統領は、まだ米議会が未承認であるが、グルジアに対する 500 万ドルの追加支援を拠出する予定であることを伝えた。支援は、アブハジア・南オセチア行政境界線付近の住民に対するインフラの整備、「反差別法」の施行などに用いられる。

### 3. 内政

#### ▼統一地方選挙に向けた動き

・5 月 31 日にガリバシヴィリ首相が地方での演説で、統一地方選挙では「いかなる町・地区においても他の政治勢力の勝利を許さない。『グルジアの夢』(GD) 以外の政党の勝利は、そこの住民にとって不利益になるだろう」と発言したこと、および、一部の地域で政権与党からの圧力によるとされる野党候補者の辞退が相次いでいることについて、「公正な選挙と民主主義のための国際社会」、「Transparency International Georgia」、グルジア青年法律家協会などが共同声明を発表し憂慮を表明。首相の発言は野党に対する圧力を助長していると批判。声明によれば、15 地区でこれまで野党 6 党の候補者約 50 名が辞退した。

・候補者の辞退によって比例代表の名簿の人数が一定数を下回ると名簿が無効になってしまう問題について、GD

は最低人数の条件の撤廃を示唆。3日、中央選挙委員会は最低人数に関する規定の削除を決定。

・6日、ズグディディのUNM事務所には党員や候補者らと、付近で集会をしていた人々との間で小競り合いが起こった。

・7日、バトゥミでUNMのボケリア前国家安全保障会議書記、ウグラヴァ前トビリシ市長らが選挙に向けた会合を開いていた際、抗議者らとの間でもみ合いとなった。

・7日、ハマーバーグEU司法改革・人権特別顧問は会見で、特に政治・選挙に関連したヘイトクライムが起こっているとして、政府に対し、全国的な暴力反対キャンペーンの実施を呼びかけた。「ハ」顧問は、「率直に言って、一部の指導的な政治家はこの問題を真剣に受け止めていないような印象がある」と述べた。

・8日、在グルジア米国大使館は、暴力事件や野党候補者に対する政権与党からの圧力に関する告発が相次いでいることに懸念を深めているとして、「過去2回の選挙において国際社会から評価された高い水準が今回の選挙でも満たされることが保証されるべく、当局が必要な措置をとるよう求める」との声明を発表。

#### ▼イマムクリエフ・マルネウリ地区長候補の立候補資格をめぐる議論

・5日、シダ・カルトリ地方マルネウリ地区の地区長に立候補した野党「統一国民運動」(UNM)のイマムクリエフ氏について、アサニゼ同地区選挙委員会委員長は、「イ」氏が「選挙前2年間の国内居住歴」という立候補の条件を満たしていないとして候補者の登録を抹消。UNM支持者らが選挙委員会の事務所を取り囲むなか、ウグラヴァ前トビリシ市長らが実力で登録抹消を阻止しようとしたことに関し、中央選挙委員会は選挙事務に対する不当な干渉であるとしてUNMを非難する声明を発表。

・7日、「Transparency International Georgia」とグルジア青年法律家協会は、5月に野党が「選挙前の国内居住歴」を理由に与党連合のルスタヴィとポティの市長候補の立候補資格の取り消しを求めた際、中央選挙委員会が立候補

を認める判断を下したことを踏まえ、中央選挙委員会に一貫した対応を求める共同声明を発表。

・8日、中央選挙委員会は、「イ」氏の立候補資格に関するUNMの訴えに対し、委員の多数決により、立候補を認めない判断を下した。UNMはトビリシ市裁判所に提訴。

・10日、トビリシ市裁判所は、UNMの訴えを認め、「イ」氏の立候補資格を認める判決を下した。

## 4. 経 済

### ▼2014年5月のインフレ率(3日)

・月間インフレ率はマイナス0.3%。食料品・非アルコール飲料(特に乳製品、卵、野菜)の価格が1.7%低下。医療費が1.2%上昇。

・年間インフレ率は2.4%。食料品・非アルコール飲料の価格が2.6%、医療費が5.8%、アルコール飲料・タバコの価格が6.4%上昇。

### ▼ロシアNIS貿易会の代表団がグルジアを訪問(4日-6日)

・西岡ロシアNIS貿易会(ROTOBO)会長率いる代表団がグルジアを訪問。4日、ガリバシヴィリ首相と会談。「ガ」首相は、グルジア政府は外国からの直接投資を歓迎するとして、グルジアの自由なビジネス環境および地理的位置の強みについて話した。

・5日にはクヴィリカシヴィリ経済・持続的発展大臣との会合が行なわれ、経済・持続的発展省、エネルギー省、インフラ・地域発展省および投資基金の代表者らがグルジア経済・投資環境について、セクター別、テーマ別のプレゼンテーションを行なった。

・6日、代表団はバトゥミに移動。アチャラ自治共和国首班と会談した後、港湾やホテルなどを視察した。